

< 参考資料 >

ヨーロッパの新たな農業への提言

2009年欧州議会 議員立候補者へ求めること

2009/05/29

スローフード・インターナショナル

Sloweb

<http://sloweb.slowfood.com/sloweb/eng/dettaaglio.lasso?cod=3E6E345B0cead2AC04GnR22D8BB7>

からの抄訳

スローフードすぎなみTOKYO

大屋芳隆・斉藤由紀子/訳

佐々木俊弥/監訳

来る欧州議会選挙は、文化的に現在のヨーロッパの姿を定義づける重要な時期に実施される。

ヨーロッパは、各国の特徴と同時に共通項を再発見しない限り、重大な脆弱性に直面する可能性がある。欧州議会では、国家利益を守るために奔走する各国代表者の影響で、市民活動の余地が徐々に狭められている。

過去数十年間、農業は国家や政府によって、一般的な政策リストの一項目として扱われてきた。しかし、ここ十年ほどの間に、農業は政策の中心的役割を担う数少ないものの一つとして、政府組織から注目を集めるようになった。その理由は、環境、気候変動、環境持続性、資源活用、そして最も大切なことだが、ここ数ヶ月の間に起こった食料危機である。さらに、農業従事者の多い国々がEUに加盟することが、さまざまな変化を引き起こし、リスボン条約の発効それ自体がこれらのテーマに光を当てることになったのである。

これまでなされた重要な研究や出版活動の結果、生産部門間のつながり、個人と社会的活動のつながり、そして環境と経済のつながりの重要性が今やはっきりしてきた。

我々は将来の欧州議会メンバーに次のような誓約を求める。

それは、ヨーロッパのバランスシートが監査されたときに、農業が果たすべき役割を支えるために現在割り当てられている予算を守ることである。質にこだわった農業は、地域的特性の保護、環境持続性、そして公平な収入分配システム確立の努力の上に成り立つのである。

したがって、我々は欧州議会選挙の候補者に、もし議員として選ばれたならば、以下の問題に取り組むよう要求する。

■国際的な貿易ルールと市場性の調整

グローバリゼーションにより、輸送時の二酸化炭素排出による環境面への影響と、サービス等の増加による経済的な負担の2つの問題が出てきた。従って、農業生産物の直売システムを促進することは必要である。その結果、輸送が原因の環境汚染は減り、サプライチェーンの短縮によって適正な価格を提示することができる。

農業は、経済全体の発展にとってますます戦略的なものになりつつある。この観点から、ドーハラウンドと関連して、欧州連合は地域的特性のある質の高い農業の発展を阻害するような合意は避けなければならない。いくつかの農業製品は、(規制対象である)熱帯性製品のリストから取り除かれるべきである。一方、特定の地域における、重要な農業製品はより手厚い保護を受けるに値する。農業従事者は、需要に応じて自由に生産できなければいけない。

一方、収入支援は、公平に配分されるべきである。南北の従事者間で利益衝突が起こることを避けながら、若い世代や新加入した国々が、「歴史的な」理由から不公平を被ることがないようにしてはならない。つまり、小手先の農業政策の組合せではなく、農業発展にとって重要な経済活動と、適正な食料政策への移行が必要なのである。グローバル化した経済は、先物取引をする側面を持ち、その結果、今日の価格高騰が生じているのである。

■中小規模農業と地域経済

この二つは、ヨーロッパ農業の大きな特徴である。単一で普遍的なモデルを押し付ける、誤ったグローバリゼーションにより進められた農業に取って代わるものとして、また、多様性の上に生活する人々にとって取り返しのつかない事態にならないようにするために、ヨーロッパ農業の土台とならなければならない。

■2013年以降を見据えて（「条件制限」「多機能性」「地域発展」という基準の強化）

◎「条件制限」

環境保護のためのルールをより厳格に設定することが、EUの農業に対する支援の唯一の根拠となる。なぜなら、それは市民にとって最も関心のある問題だからである。

◎「多機能性」

競争力があり、持続性もある独自のビジネスモデルの設計図をつくること。品質は市場によって「評価され」、公的資金は想定外の要因のために使われる。

◎「地域発展」

多様性を持った商業的農家対象の地域政策を促進するために、個人部門の利益に関係なく農業投資を運用すること。これはまた公的補助金や官僚制の単純化、小規模技術への奨励金、中規模の加工センター(食肉処理場、製粉所)の強化、ファーマーズ・マーケットの発展のための支援、「公正な価格」実現を目指す消費者や共同体に支えられた農業を支援すること、生産者による直取引と小売を広めるための特別な取引条件を支えることである。

■産地表示

ヨーロッパ農業の競争力を高めるために、品質、固有性、食の安全性、そして環境基準が、有効に活用されなければならない。もし、ヨーロッパが競争力を高める必要があるのならば、不正な競争や偽りの固有生産物から身を守る必要がある。つまり、産地をラベル表示することがまさに重要なのである。同時に、世界中のすべての農業に権利と固有種の尊厳があることを認識し、‘原産地表示’のための多面的なシステムを作り、受け入れなければならない。

■若い世代のための奨励金(教育、ビジネスの機会、そして税金面で)

若い世代が地方に戻り、そこに居続けることなくして、ヨーロッパの農業に未来の挑戦はない。農業従事者の高齢化を考える際、地方での生活が財政的に満たされるだけでなく、望ましい社会生活が営まれているかという基準も忘れてはならない。

■東欧農業の焦点

近年 EU に加盟した東欧諸国は、誤った開発から保護されなければならない。生産物が持続可能な状態で高品質かつ競争力のあるものとなるよう、それらの国々の農業システムは積極的に守られるべきである。これは EU 議会の課題であると同時に、各国の代表者に与えられた課題である。昨今、西ヨーロッパが東欧に投資してきているとはいえ、東欧諸国が西ヨーロッパにみられるような短期集中的な農業、産業形態を単純に真似ることには、大変なリスクが伴う。同時に、東欧諸国が抱える問題点を解決しない限り、西欧への人の移動について考えることは不可能といえる。この観点から、それぞれの地域の発展と地域経済への支援は、非常に重要な役割を果たすといえる。

■気候変動

気候変動も、農業政策を通して考えられ、解決すべき懸案事項である。しかし、それが実行されるためには、新たな農業政策は、あらゆる厳しい気候変動による生産量の減少と、流通の関連性と市場性を勘案しなければならない。これは、特に(最近増加する)バイオ燃料について当てはまる。バイオ燃料の生産は、注意深く査定されなければならない。増加している地域、バイオマス原料、生産プラントの規模を十分評価したうえでのみ、支援を図るべきである。

さらに、農業従事者が気候変動による悪影響をうまくコントロールするための、トレーニングと情報の手助けが必要不可欠である。水資源をより合理的に活用し、土地をリスク要因から守れるよう、適切な農業技術と農業気象学などにより、農業従事者が気候変動に立ち向かえるよう支援されなければならない。

■伝統的な種子の保護

伝統的な種子は、それを育ててきた農業コミュニティの知的財産が守られるかたちで、自由に取引されるよう統制されるべきである。法的システムは、極めて現代的な“オープン・コミュニティ”の概念のもとで作られるべきであり、それによって遺伝子のノウハウが共有され、保護される。

■有機生産物を遺伝子組み換えの種子や、コントロールしづらい家畜飼料の遺伝子汚染から守ること

■景観の保護

現存する地方の建物で、特に歴史的なものは、農業用に修復して使用するべきである。各地域の伝統的な景観を保護し、耕作可能な土地が危機にさらされるようなビル建設のリスクから守ること。

■畜産の適正化

よりよい酪農法と飼育法を推進するために、適切な基準と支援メカニズムを紹介すること。畜産の安全性のルールの実現には、どのような酪農・飼育システムが行われているかを評価し見守らなければならない。

■水資源の保護

特に灌漑システムは、構造的な改良が不可欠である。農業従事者が、水資源を無駄にせず有効活用できるような手法を紹介する話し合いや、教育も必要である。短期間で見れば、わずかな行動で、例えば費用を最適化することで気候変動の影響を最低限に抑えることができる。それは、品種や農作業のやり方(種を蒔く時期)を変えたり、適切な技術(無耕やマルチングなど)の導入や、経験に基づいて灌漑(量や効果)を効果的にすることによって土壌の水分を保つことである。

長期間で見た場合には、気候変動によって引き起こされる不都合を、未然に防ぐ行動を推進する必要がある。例えば、気候変動に適応できる新しい品種を育てること(伝統的な遺伝的改良)、土壌の水分を保つために別の農作物を植えること(とうもろこしの代わりに年間にわたって土地を覆うソルガムや葦・スキ・雑穀といった多年生植物)、水の有効利用を促進するための対策(防風壁、間作物)、節水をテーマとした技術的調査への援助である。

■エネルギー資源の保護

農業廃棄物などを燃料とした、農業用エネルギー施設の建設に奨励金を出すこと。複数の小さな再生可能エネルギー施設の建設促進は、分散発電、短連鎖モデルを発展させるのに十分に価値のあることである。

■地域や性別分担のノウハウへの保護と、関連する起業への奨励金

地方に根づく知識という遺産が廃れないようにすること。この知識の幹は、情報やノウハウの源、技術的・科学的調査の土台であるだけでなく、もし適切に保護されれば、地域経済システムのカギともなりうるものである。